



1 東山魁夷記念館

住所：市川市中山1-16-2
電話：047-333-2011

20世紀を代表する日本画家・東山魁夷画伯の画業を顕彰する記念館です。画伯は生涯の大半を市川で過ごし、代表する作品の全てを市川の水で描いたと語っています。記念館は画伯の人間形成や芸術性に多大な影響を与えた留学先のドイツの民家をモチーフにしたつくりで、印象的な八角形の塔をそなえています。庭園は画伯の好きだった白樺などが植栽され、カフェレストランでの食事やミュージアムショップでの買い物も楽しめます。

6 聖教殿

「立正安国論(国宝)」『親心本尊抄(国宝)』
『日蓮自筆遺文(国指定重要文化財)』など日蓮ゆかりの貴重な資料を保存するために(財)聖教護持財団の篤志により、日蓮宗内外の援助のもとで昭和5年完成。外壁は石造りで、当時の宗教建築の権威、伊東忠太東京帝国大学教授が設計しました。様式はインドの仏塔風で、境内の建築の中でも異彩を放っています。資料を災害、湿気などから守るため、換気扇、避雷針などさまざまな工夫がこらされています。

10 四足門

もともとは鎌倉の愛染堂にあったものを移築して、法華経寺本院の玄關門としていました。再度移築され、現在の位置に置かれています。江戸時代に建造された五重塔などと異なり、室町時代の様式による細かな装飾や、柔らかに曲線を描く「海老虹梁」という梁が特徴です。

14 祖師堂

日蓮宗の祖、日蓮と歴代六祖を祀るお堂。現在の祖師堂は延宝6(1678)年建立で、その後、数回の改修を経て、昭和62年から平成9年にかけての解体修復工事により、建立当初の姿に復元されました。建築様式は非常に珍しい「比翼入母屋造り」というもので、ほかに吉備津神社本殿(岡山県)で見られるだけです。側面から見ると、大きな屋根が二重重なって見えるのが特徴です。

15 清華園

住所：市川市中山4-14-1

清華園は、平成4年9月7日、石井はなさんから寄贈されました。石井家は江戸時代の中頃の享保年間(1716~36)からこの地に住み、近代に入って文房具店と「清華堂」と名付けた書店を営んでいました。

- 凡例
- うめ
 - そめいよしの
 - ざくろ
 - どうだんつじ
 - けやき
 - つつじ・さつき
 - はなみずき・やまほし
 - さるすべり
 - あじさい
 - いちよう
 - むくろじ
 - つばき・さざんか
 - つわぶき
 - かきのき
 - きんもくせい
 - かえて
 - ひがんばな
 - はぎ
- トイレ
- 案内板
- バス停
- 道標
- 1~16 文化財

7 法華堂

法華経寺を開いた富木常忍(日常)が文永年間(13世紀後半)に銭四貫文で若宮の館に建立し、後に現在の場所に移されたと伝えられています。現在の建物は様式から室町時代後期の再建と見られ、日蓮宗の本堂としては最古に属し、室内には釈迦如来像と四菩薩像が置かれています。

8 五重塔

江戸時代以前の五重塔としては千葉県唯一です。元和8(1622)年、本阿弥光室(本阿弥光悦の甥)が両親の菩提を弔うため、加賀藩主前田利光公の援助を受けて建立しました。細かな装飾が少なく、同時代の本門寺(東京都大田区)、浅草寺(東京都台東区)に比べほっそりとした外観です。春の桜、秋の紅葉と、どの季節も絵になる中山のシンボルともいえる建築物です。

11 仁王門(赤門)

朱塗りのため通称「赤門」と呼ばれます。何度も災害に見舞われましたが、そのたびに再建されてきました。現在の仁王門は大正時代に建てられたものです。その名前の通り左右に仁王像が置かれています。扁額の「正中山」の書は寛永三筆の一人、本阿弥光悦の筆によるものです。

12 総門(黒門)

朱塗りの赤門に対して、黒塗りのため「黒門」の通称で呼ばれます。江戸時代のお城によく見られる高麗門という形式で、控柱に支えられた2本の本柱に銅板葺きの屋根が乗っただけのシンプルで豪快な造りです。中央に掛かる扁額は掛川城主・太田資順の筆によるものです。